

1996年に発表された書籍・論文

- 饗庭千代子、「ルイーズ・ラベ：狂気へのオマージュ」、『年報フランス研究』（関西学院大学）、30号、1996年12月、pp.9-20
- マヌエル・アモロス、「エラスムスの霊的メッセージと後世へのその影響」、『カトリック研究』（上智大学）、65号、1996年6月
- F.A.イエイツ、高田勇訳、『16世紀フランスのアカデミー』、平凡社、1996年3月
- 石川知広、「『エッセー』と食人族」、『東京都立大学 人文学報（フランス文学）』、275号、1996年3月、pp.1-40
- 出村彰、「Calvin Versus Castellio on the Problem of Religious Tolerance」、『東北学院大学 論集（教会と神学）』、28号、1996年3月
- 伊藤進、「フランス・ルネサンスの想像界(7) ピエール・ド・レトワルの『日記』を読む」、『中京大学 教養論集』、36巻3号、1996年2月、pp.265-289
- 海堀勲、「『エッセー』の文献研究」、『大阪商業大学 論集』（人文・自然・社会篇）、106号、1996年12月
- 江口修、「ロンサールと死」、『小樽商科大学 人文研究』、91号、1996年3月、pp.39-54
- 延味能都、「P. de Ronsardの3恋愛詩集の語彙概観 - 『恋愛詩集』（1552）、『続恋愛詩集』（1555）、『新続恋愛詩集』（1556）』、『独仏文学研究』（岡山大学）、15号、1996年3月、pp.33-62
- 奥村真理子、「モンテーニュ、見上げる目、見下ろす目(2)」、『広島大学 文学部紀要』、56巻、1996年12月、pp.269-289
- 小倉和子、「恋愛詩と実存 - ロンサール、ボードレー、ボンヌフォワの場合 -」、『フランス文学』（立教大学）、25号、1996年3月、pp.45-59
- 鍛冶義弘、「マルグリット・ドゥ・ナヴァール『エプタメロン』の構成について」、『独仏文学』（大阪府立大学独仏文学研究）、30号、1996年、pp.1-15
- 木ノ脇悦郎、「エラスムスのSermatulus sive ついて」、『関西学院大学 神学研究』、43号、1996年3月
- 古賀敬太、「カルヴァンの自由概念」、『大阪国際大学 国際研究論叢』（政治・法律）、8巻-1、1996年3月、pp.35-58
- 小島久和、「ペトラルカ - 恋愛と宗教の狭間で -」、『明治大学 文芸研究』、75号、1996年2月
- 斉藤広信、「日本におけるモンテーニュの受容をめぐって」、『日本女子大学 紀要（人間社会学部）』、6号、1996年3月、pp.285-298
- Hironobu SAITO、「Remarques sur le «scepticisme» de Montaigne」、『ロンサール研究』（日本ロンサール学会）、9号、1996年4月、pp.59-67

- 佐藤賢一、「16世紀フランスにおける軍隊の構造 -モンリックの『従軍記』にみる人的関係」、『西洋史研究』、25号、1996年11月、pp.73-101
- 菅波和子、「『サチール・メニッペ』研究(11) 同書「第2章」及び「第4章」の訳と注解」、『日本大学 国際関係研究 国際文化編16』、17-2、1996年12月、pp.27-38
- マイケル・A・スクリーチ、荒木昭太郎訳、『モンテーニュとメランコリー』、みすず書房、1996年10月
- 鈴木教司、「フランス売官制の消長(6) 司法官職を中心にして」、『愛媛法学会雑誌』、23巻-3、1996年12月、pp.1-28
- 砂原教男、「カルヴァン、そしてツヴァイク」、『大阪経済法科大学 総合科学研究所年報』、15号、1996年3月、pp.3-10
- 高橋薫、「フランス16世紀断章(7) 、4 ラ・ロシュ領主フィリップ・ポ、ただひとたびの脚光(?)」、『駒沢大学 外国語学部論集』、43号、1996年3月、pp.43-59
- Yumiko TAKAHASHI-TSUTUI、「La *mimesis* de Rabelais -apport de Lucien de Samostate au *Tiers Livre*」、『仏語仏文学研究』(東京大学)、14号、1996年6月、pp.115-151
- 田上雅徳、「カルヴァン政治思想研究序説 -その内在的理由に向けて-」、『慶応大学 法学政治学論究』、31号、1996年12月、pp.319-350
- 竹下和亮、「F.レストランガン著『ルネサンス期における世界の記述』」、『東京外国語大学 地域研究ブックレビュー』、13号、1996年3月、pp.170-185
- 田辺保、「モンテーニュの読み手としてのパスカル」、『神戸海星女子学院大学 研究紀要』、35号、1996年12月、pp.219-238
- 徳永雅、「モンテーニュにおける「他者」の把握と「他者描写」の実例 -キケロの場合-」、『Gallia』(大阪大学)、35号、1996年3月、pp.1-8
- 徳永雅、「モンテーニュにおける「他者描写」の方法的意義 -カエサルの場合-」、『大阪大学 待兼山論叢』(文学篇)、30号、1996年12月、pp.77-89
- 中村美幸、「中世末期フランスの衣生活に見る人々の心的態度について」、『神戸大学 史学年報』、11号、1996年5月、pp.1-18
- Marie-Victoire NANTET、「Passion amoureuse et métamorphose dans le *Canzoiere* de Pétrarque et le premier livre des *Amours* de Ronsard」、『ロンサール研究』(日本ロンサール学会)、9号、1996年4月、pp.37-58
- 花田洋一郎、「15世紀中葉プロヴァン都市会計簿の分析 -中世後期フランス都市財政の1例-」、『九州大学 経済論究』、94号、1996年3月
- 平野隆文、「Pierre de Lancre を読むCollin de Plancy -*Dictionnaire Infernal*の中の「神話」、「護教」、「文学」」、『フランス文学論集』(青山学院大学)、5号、1996年、pp.1-38
- リュシアン・フェーヴル、二宮敬訳、『フランス・ルネサンスの文明』、ちくま学芸文庫、1996年5月

リュシアン・フェーヴル、石川美子訳、『ミシュレとルネサンス 歴史創始者についての講義録』、藤原書店、1996年4月

宮川慎也、「モンテーニュの『エッセー』における自己描写をめぐって - 「鏡」とラ・ボエシー」、『ロンサル研究』（日本ロンサル学会）、9号、1996年4月、pp.19-35

宮下志朗、『エラスムスはブルゴーニュワインがお好き -ルネサンスつもる話』、白水社、1996年7月

宮下志朗、「架空図書目録、あるいは知の倉庫について」、『is』、71号、1996年8月、pp.34-37

宮下志朗、「無銭飽食の手引き」、『図書』（岩波書店）、1996年2月号、pp.14-20

村田八束、「クレマン・マロ「第2エピグラム集」のアンヌとアンヌ・ダランソン」、『九州産業大学 国際文化学部紀要』、5号、1996年3月、pp.73-95

諸田実、「アントウェルペンとリヨン -16世紀の「世界市場」」、『神奈川大学 商経論叢』、32巻3号、1996年12月

八木淳、「*Si durs Epygrammes* - 『デリー』におけるエピグラムの構造とポワント」、『ロンサル研究』（日本ロンサル学会）、9号、1996年4月、pp.1-18